

(7月の果実見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	入荷量(t)	占有率(%)	
すいか		12,918	100	14,741	145	100	126	1,918	14.8	千葉、鳥取、長野、山形、新潟産で9割を占める。千葉産は入荷量は前年並みで、前年に比べ大玉傾向。鳥取産は作付け減少から入荷は前年の8割程度となる見込み。長野産は7月中旬から入荷が始まり、下旬にピークとなる。入荷量は前年並みの予想。山形産は昨年に比べ2割入荷増の見込み。ピークは7月下旬。全体の入荷量は前年並みで、品質についても食味良の仕上がりとなっている。価格は前年をやや上回る見込み。
こだますいか		2,603	98	2,380	137	103	128	668	25.7	山形、茨城、神奈川産で7割を占める。中心の山形県産は7月上旬から入荷し中旬にピークとなる。作柄も順調で入荷量も前年並みと見込まれる。茨城県産は出荷が前進したため7月上旬で入荷は終了する見込み。神奈川県産は作付けが2割減少のため、入荷は前年の8割と予想される。全体の入荷量は前年をやや下回る見込み。価格は前年をやや上回る予想。
もも		5,865	108	6,787	504	89	463	3	0.1	山梨、福島産で9割以上を占める。山梨産は干ばつの影響で玉伸びは悪く小玉傾向であるが食味は良好。入荷量については前年比1割の増と見込まれる。福島産は前年よりも生育は進んでいる。入荷は7月上旬より始まるが、主力品種の「あかつき」は7月末からピークに入る。入荷量は山梨同様1割程度の増となる。全体の入荷量も前年を上回り、価格は前年を下回ると予想される。
メロン(アールスメロン)		912	95	1,106	642	100	596	4	0.4	静岡、千葉、高知産中心の入荷で8割を占める。全般に作付減による入荷減の見込み。静岡産は天候に恵まれ作柄は良好。千葉産はも好天に恵まれ生育は順調。高知産も作柄は順調。入荷は7月いっぱい終了の見込み。全体の入荷量は各産地とも作付けが減少傾向から入荷は前年を下回る見込み。品質は内容・外観とも良好な仕上がり。価格は中元期となるため、中旬までは堅調に推移するが予想される。
メロン(アンデスメロン)		889	102	1,002	294	85	244	690	77.7	山形産主体(71%)の入荷。入荷は6月下旬から始まっており、ハウスもののピークは7月上旬。中旬以降はトンネル栽培に切り替わる。果実は3Lを中心と大玉傾向。作柄は前年をやや上回る見込み。価格は前年を下回る見込み。

(7月の果実見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	入荷量(t)	占有率(%)	
ぶどう(デラウエア)		1,040	101	1,211	707	99	647	403	38.3	山形、山梨産で7割を占める。山形産はハウス加温が6月下旬から入荷開始。作柄は順調で着色も良好。加温もののピークは中旬と予想され、下旬には無加温の入荷が始まる。入荷量は前年より若干多いと予想される。山梨産は作付けが前年の9割。入荷量も作付けの減少の影響で1割程度少なくなる見込み。全体の入荷量は生育の前進から7月については前年並みと予想される。価格についても前年並みの見込み。
ハウスみかん		1,420	99	1,687	840	103	790	-	-	佐賀、愛知、大分、長崎産で6割を占める。各産地とも作付け減の中、市場の集約化により入荷は前年並みの入荷となる見込み。価格は中元需要の引き合いも強く、堅調に推移すると予想される。
すもも		1,086	100	1,379	475	89	388	159	14.6	山梨、山形産の入荷で8割を占める。山梨産は前年に比べ作柄が良好入荷も前年を上回る予想。山形産は中旬より入荷が始まり、下旬まで入荷が続く見込み。作柄は良好で、前年並みの入荷が期待できる。全体の入荷量は平年並み、価格は前年を下回る見込み。
おうとう		877	105	597	1,146	96	1,267	729	90.3	山形県産を中心に北海道、秋田産が出回る。山形産は品種が佐藤錦から紅秀峰に切り替わる。入荷は7月中旬で終了の見込み。北海道産は7月始めから入荷予定。作柄も良く、入荷は前年並みの予想。秋田産は6月下旬から入荷したが、平年より着果が少ない。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格も前年をやや下回る見込み。
マンゴー		179	90	155	1,233	194	1,196	-	-	主産地が宮崎から沖縄に移る。宮崎産は入荷量が前年比3割増と予想される。沖縄産は開花期の天候不順から作柄は3割減の見込み。全体の入荷量は主産地の沖縄が入荷減から前年を下回る見込み。価格は、国産マンゴーの需要は引き続き強く、中元需要もあることから高値で推移する見込み。